

長かった夏から秋が来たと思ったら、急に寒い日もあり、秋が駆け足で通り過ぎようとしています。北欧の報告も、今回で最後になりました。先月の続き、重度障害者のグループホーム、「オスクリンブイスト」の視察からです。

視察団からの質問と回答

■職員について（虐待・求人・やりがいについて）

- ・虐待については全くありません。もしあったとしたら、すぐに解雇になります。反対に利用者からの暴力については警察 が介入します。
- ・未成年やこのような業界で働く時は雇用主に犯罪歴があるかどうかを告知しなければならなりません。分野として、社会 福祉全体に人材不足はあります。しかし、この事業所は福利厚生に力を入れています。保険や職員の衣料費、イベント、社員旅行、またプライベートドクターにカウンセリングを受けることができます。また、施設長がよく職員を見てくれ ているので、話しやすい信頼関係が双方にあります。職員が良くケアされていると思います。
- ・年2回の研修や資格取得制度があり、単位をもらえます。やりがいは、ここの住人が社会に溶け込んでいくのが願いで、それを見るのがうれしい。支援者付きで働いている人もいるが、その人達の喜びを共有することが、私たちのやりがいになっています。
- 生活について（食事・嗜好品・医療）
- ・正直なところ、電気代や食費代が上がっているのでもう昨年よりは苦しいが、経済状況は良い方だと思います。生活水準を下げることはしたくないですし、年金が下がることはありません。
- ・今までアルコールやタバコを要求する人はいませんでしたが、自己決定権を尊重します。イースターにはワインを飲むこともあります。
- ・現在最高齢で80歳の方がいますが、医療が必要になった場合も基本的には最後まで見ます。以前、ここでホスピスを利用して亡くなった方がいます。車椅子等はヘルシンキ市から無料でもらえます。そして最後までここで生活します。なぜならここは『自宅』だから。

まだまだ質問は続きますが、その質問の中でも私が驚いたのが

①関わる支援者も大切にされているということ ②障害者の権利が守られているということです。

①支援者もケアされているということは、利用者にも反映されていることなので、大切だと思う話をしました。日本では福祉業界、特にこの障害児者に関する分野は所得も低く、なかなか成り手がいません。障害者の権利も大切ですが、それを支える支援者側の制度を充実させることも大切だと思いました。

②障害者の権利のところで、ガイドヘルパーの時間数はどれくらいか？と尋ねた時に「あなたの余暇の時間は決められているの？出かけたい時に出かけるでしょ。そういうものだから、時間数なんて決められていない。普通の人と一緒に」と回答されました。

「もっともです。余暇の時間数が決められてるって、おかしいよね。」と、この時に気づきました。同じ人間としての権利、障害の有無に関わらず余暇を楽しむという同じ権利があるはずなのに、障がいがあるというだけで制約させられている日本。またその中にいるとそれが当たり前になって気づかない私。質問していて恥ずかしくなりました。施設長のイェンモニさんの「ハア～？あんた何言ってるの？」と、私の質問の内容に眉を顰め、なんなら肩をすくめてため息まじりに話す様子が印象的でした。

郡 奈美

今年度は8月26日27日の日程で行われた「今日は主役！きょうだいキャンプ」も第3回となりました。集合場所に集まって来る子ども達の表情は硬いのですが、バスに乗り込み、友だちやスタッフと話したりゲームをしたりしていると、どんどん緊張もほぐれ表情は和らぎ子ども達は活発になっていきました。

キャンプでは、沢登りやカレー作り、ツリーイングに取り組みました。キャンプファイヤーは残念ながら雨で中止になってしまいましたが、1つ1つの活動を全力で楽しむと共に活動が終るごとに達成感と自信に満ちた笑顔があふれていました。

夜の振り返りでは、きょうだいについて話をする時間を設けました。「〇〇してくるとこがイヤやねん～」「笑顔がかわいいねん！」や「きょうだいがいるからこそ体験できることがある」など普段お家では話さない話をしてくれた子など、感じていることを子ども達なりに話してくれました。企画に込めた思いにもありますが、これから同じ境遇の仲間がいること、色々な話ができて共有できるそんな場になればと思っています。

キャンプ後のアンケートは参加者全員の方が回答くださり、「バスを降りた瞬間、来年も行く！」や「全部最高に楽しかった」などたくさんの感想をいただきました。今回のキャンプ解散時には、キャンプが終るのが悲しくて涙を流す子がいました。1泊2日ですが子ども達はその中で色々な事に挑戦し、大人には見えないたくさんの感情と葛藤し様々な体験をして自信へと繋げていっていました。

最後に、子ども達と準備し送り出してくださった保護者の皆さま。2日間子ども達の側にいて一緒に楽しみ支えてくれたボランティアのみなさん。あたたかいサポートのおかげで2日間のキャンプを無事に終えることができました。本当にありがとうございました。

第3回

今日は主役！

きょうだいキャンプ

1泊2日

IN とちのき村



つくろハロウィン



おねがい

Angieで掃除などに使用する雑巾・ボロ切れが不足してきております。もしおうちに古いタオルや、Tシャツ（綿のもの）などご不要なものがございましたらお持ち下さい。ご協力よろしくお願い致します。

いつもありがとうございます。1枚からでも大歓迎です。



今年のハロウィン制作は紙皿二枚を合わせたハロウィンバッグ。かぼちゃ・猫・お化けの中から好きな柄を選んで作るのですが、鬼がいい！とオリジナルでバッグを作る子もいました。まずは筆やスポンジを使い、紙皿に好きな色で色付け。紙皿の丸みのある部分にも角度を変えながら色を付ける子がいいて、ピンクの猫や青のおばけなど色とりどりに紙皿を仕上げました。次は事前にスタッフが用意していた顔のパーツを使って飾り付けです。見本を見て同じパーツを選んで作ったり、隣で作っていた子が見本にはなかった鼻のパーツをつけているのを見て同じようにつけてみたり、目の向きを反転させてつけている子がいたり、見本は一つでもそれぞれが自分だけの素敵なバッグを作っていました。最後に2枚の皿をひもを通してつなげたら完成！10月25日にバッグをもって町内を回る予定です。お楽しみに！

